

## 平成22年8月期 第2四半期決算短信

平成22年4月9日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス  
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役社長室長  
 四半期報告書提出予定日 平成22年4月14日

(氏名) 浅山雄彦  
 (氏名) 白鳥弘之  
 配当支払開始予定日

TEL 054-281-5238  
 平成22年5月31日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年8月期第2四半期の連結業績(平成21年9月1日～平成22年2月28日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年8月期第2四半期	7,127	16.8	441	16.7	427	25.2	191	—
21年8月期第2四半期	6,103	23.8	377	△7.6	341	△29.5	△7	△102.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年8月期第2四半期	160.45	160.33
21年8月期第2四半期	△6.33	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年8月期第2四半期	13,774	5,131	37.3	4,306.74
21年8月期	13,283	5,053	38.0	4,218.35

(参考) 自己資本 22年8月期第2四半期 5,131百万円 21年8月期 5,053百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年8月期	—	50.00	—	50.00	100.00
22年8月期	—	50.00	—	50.00	100.00
22年8月期 (予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年8月期の連結業績予想(平成21年9月1日～平成22年8月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	9.3	1,050	42.5	1,000	43.7	550	326.4	461.58

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年8月期第2四半期 1,218,522株 21年8月期 1,217,862株

② 期末自己株式数 22年8月期第2四半期 26,969株 21年8月期 19,979株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年8月期第2四半期 1,194,058株 21年8月期第2四半期 1,200,578株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1株当たり予想当期純利益は、期末発行済株式数(自己株式控除後)1,191,553株により算出しております。

本資料に掲載されている業績の見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、6ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成21年9月1日～平成22年2月28日)におけるわが国経済は、世界不況に伴う景気の悪化は底打ちしたものの、企業収益や雇用・所得環境は一部を除き未だ厳しく、個人消費も依然として低迷しデフレ経済へと推移しました。

しかしながら、当社が属する健康食品業界においては、「消費者は健康志向に傾斜している」という日本政策金融公庫の調査結果からも推測できるように、健康に対する人々のニーズは普遍的なものであり、景気に左右されにくい業界であると考えられております。

このような環境下において、当社グループの主力事業の一つであるOEM事業を中心に堅調に推移しました。また、当社グループの傘下(平成20年12月)となった(株)AFCもりやの百貨店店舗における販売実績も加わり、当第2四半期連結累計期間の売上高は、7,127百万円(前年同期比16.8%増)となりました。

損益面につきましては、主力事業が好調であったことにより、新規部門の先行投資によるマイナス分をカバーし、営業利益441百万円(前年同期比16.7%増)、経常利益427百万円(前年同期比25.2%増)となりました。当四半期純利益につきましては、191百万円(前年同期は7百万円の損失)となりました。

事業の種類別セグメントの概況

①ヘルスケア事業

(OEM部門)

日本通信販売協会の発表によると、平成21年12月において健康食品の通信販売売上高は最高の伸びとなりました。当社OEM部門においても、通信販売事業会社への売上が大幅に伸長したと同時に、新規取引先の獲得及び既存先における新規採用品目数の増加により売上高2,261百万円(前年同期比43.3%増)となりました。これらの背景には、当社の技術水準、品質保証の取組みが取引先に評価されたものであると考えます。

健康産業新聞に掲載されていた「健康食品とサプリメントの機能志向食品の効能別市場調査」では、「骨・関節サポート」素材が好調を示し、市場の拡大が続いているとの結果が出ており、当社においても、関節系素材であるグルコサミンやコンドロイチン、及びアイケア用素材であるブルーベリーやルテイン、そして黒酢や青汁といった古くから用いられている素材が好調を維持し、当社の方向性は、現状、消費者のニーズと一致していると言えます。また、工場の生産に関しましても、当第1四半期中に獲得した取引先からの受注生産が軌道に乗ったことにより、剤形別では、錠剤の生産量は前年同期比26.0%増、ソフトカプセルについては前年同期比80.0%増の実績を得て、極めて高稼働率で推移しております。平成22年8月期第2四半期を終え、既存顧客からの受注は順調に増加しており、下半期は、新工場建設に向けた長期的な大ロット取引の獲得と、これに伴って、当社の強みや弱み、市場動向等を勘案した適切な設備導入を図り、人材の育成に努めます。

(海外部門)

シンガポールのOEM事業取引先へのカラーゲンドリンク販売が好調であったこと、また、化粧品シリーズの新アイテムの販売開始により売上が順伸びいたしました。同国におけるAFCブランド商品の販売実績も堅調に推移し売上に寄与いたしました。下半期の取組みといたしましては、上海亜沛希(AFC)商貿有限公司の販売活動が開始される予定であり、この基盤作りと、台湾におけるAFCブランドの確立並びに新規大手OEM取引先の発掘に注力して参ります。

(通信販売部門)

創業40年を誇る通信販売部門では、高級化粧品「BEAU AVEC」シリーズのアイテムの一つ、アスタ石けんの売上が、地元テレビ局放送のテレビショッピング番組を通して好調に推移いたしました。一方、新規顧客の獲得や潜在顧客の掘り起こしを目的に、テレビショッピングに照準を合わせた広告媒体戦略を展開しておりましたが、同業他社間における競争の激化により予想した新規顧客獲得数につながらなかったことが影響し売上減となりました。

平成22年3月1日より、グループ会社の(株)けんこうTVが譲り受けたスカイパーフェクTV!「240スタイル」が開始されております。今後は、グループ会社による企画・運営の下、自社製品販売用の番組を制作し、適切な時間帯に放送する等、効率的な宣伝広告が可能になり、新規顧客の獲得と潜在顧客の掘り起こしの挽回に努めます。

(卸販売部門)

小売店の現場では、消費意欲の低下やデフレによる価格下落等の影響により引き続き厳しい市況となりましたが、催事販売によって直接消費者に訴える販促や新商品(華コラT s u b a k i等)の上市を積極的に実施いたしました。また、この不況下、無駄をなくす小分けサイズの商品が見直されており、当社においても現行商品をハーフサイズ化したところ大手スーパーマーケットで採用され、好評を博しております。これらの戦略により、売上高につきましては、小幅な減収に止めることができました。

下半期の重点施策といたしましては、AFCブランドの知名度向上及び好感度アップを図るため、健康関連の展示会に積極的に参加し、全国の様々なバイヤーと接触する機会を増やすと共に、自立した女性として健康的で明るく生きる姿が大きな共感を得ている女性タレントをイメージキャラクターに起用いたしました。

(店舗販売)

百貨店業界の不振が続く中、百貨店を販売基点とする(株)AFCもりやの売上高は堅調に推移いたしました。要因として、顧客のニーズに沿った商品をタイムリーに提供し続けていることによる固定客の流出防止が、売上向上に寄与したと考えます。関節系サプリメントであるグルコサミンや美容系サプリメントのコラーゲン・ヒアルロン酸、スキンケア用サプリメントのブルーベリー・ルテイン、及び体質改善対応サプリメントとして販売しているコラーゲン青汁の販売数量の伸張が顕著でありました。今後もこれら自社製品の販売構成比率を高め、さらなる利益率の向上に努めます。

自然食品の販売を行う(株)正直村については、4店の新規出店や、利益率の高い新商品の積極的展開による売上の底上げ、及び労働コストの見直しにより経費削減に成功いたしました。百貨店業界不振の影響をカバーするには至りませんでした。下半期は、新商品の開発を進め、取扱商品の拡充を図ると共に、百貨店の顧客名簿を活用した店舗販売戦略を展開して参ります。

上記要因等の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高 6,105 百万円(前年同期比 18.8%増)(セグメント間内部売上高含む)、営業利益 696 百万円(前年同期比 29.6%増)(配賦不能営業費用控除前)となりました。

②医薬品事業

現政権による事業仕分けでも見られるように、国家予算、なかでも薬剤費などの医療費の軽減が、他に類を見ない少子高齢化したわが国喫緊の課題であります。

本草製薬(株)の漢方医薬品は、承認上で認められている効能・効果は他社と同等性を有しており、長年の販売実績を誇る製品であって、副作用などに関わる苦情も発生しておりません。しかしながら、製薬会社ごとの薬価(販売価格)差が大きく存在します。昨今、保険料や治療費を支払えないとの理由による受診遅れが、社会問題化しております。この状況下にあつて、医療機関においては薬価差に注目が集まっており、国公立病院からの引き合いが増えていると同時に、国内トップクラスのジェネリックメーカーが4月より本草製薬(株)の製品の取り扱いを開始いたします。また、慢性疾患や不定愁訴に多く用いられる漢方治療を必要とする人々を念頭に、毎月全国各地でセミナーを開催し、漢方薬の普及に努めて参りました。

当第2四半期連結累計期間は、新型インフルエンザの院内感染回避及び不景気による受診控えの影響を受けております。それらをカバーするための重点施策として、自社で特許を持つ消炎含嗽液「アズミンうがい液」、後発高血圧治療薬「アムロジピン」、アレルギー性疾患治療剤「ヘルボッツ」を始めとしたジェネリック薬の積極的な販売を展開すると共に、新規開拓を推し進めた結果、新規取引数も大幅に増加させることができました。

一般用医薬品においては、大手ドラッグストアのPB戦略が加速する中、本草製薬(株)においても「防風通聖散」、「かぜ内服液」など大口の受注を獲得いたしました。下半期につきましては、メタボリック対策製品として肥満症に効果がある「防風通聖散」の販売が好調に推移していることを受け、「大柴胡湯」を4月に上市いたします。

上記要因等の結果、医薬品事業の業績は、売上高が 799 百万円(前年同期比 8.6%減)(セグメント間内部売上高含む)、営業利益 8 万円(前年同期比 99.8%減)(配賦不能営業費用控除前)となりました。

③その他事業

グループ各社の広告宣伝を一手に担う㈱けんこうTVにおいて、グループ外企業への放送枠販売やテレビショッピング番組制作業務による売上が堅調に推移しました。自社スタジオ及び専門スタッフを活用したテレビショッピング番組制作は、低コストで小回りの利くサービスの提供が可能のため、様々な顧客のニーズに対応することができ、さらには、保有している全国の地上波・BS・CS等の放送枠と併せて提案できることが強みとなって新規顧客の獲得につながりました。下半期は、平成22年3月1日より運営を開始しているCS放送事業スカイパーフェクTV!「240スタイル」の充実を図ると共に、現在保有している全国の地上波テレビ局、BS局及びCS局の放送枠を見直し、より顧客ニーズに合った番組を組み入れることにより、効率の良い広告手配を行って参ります。

上記要因等の結果、その他事業の業績は、売上高517百万円(前年同期比16.0%増)(セグメント間内部売上高含む)となりましたが、新規事業立ち上げのための固定費の増加等により、営業損失38百万円(前年同期は7百万円の営業利益)(配賦不能営業費用控除前)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ386百万円増加し、7,255百万円となりました。この増加要因は主として、受取手形及び売掛金が191百万円、商品及び製品が107百万円、仕掛品が93百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ105百万円増加し、6,518百万円となりました。この増加要因は主として、土地が127百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ611百万円増加し、5,440百万円となりました。この増加要因は主として、短期借入金が181百万円、支払手形及び買掛金が173百万円、流動負債のその他が129百万円、未払法人税等が123百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ199百万円減少し、3,202百万円となりました。この減少要因は主として、長期借入金が150百万円、社債が50百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ78百万円増加し、5,131百万円となりました。この増加要因は主として、純資産の控除科目である自己株式が49百万円増加したことにより純資産が減少した反面、四半期純利益の計上により利益剰余金が131百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ6百万円増加し、2,858百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は458百万円(前年同四半期比287百万円の収入増)となりました。これは主として、たな卸資産の増加額236百万円、売上債権の増加額192百万円、法人税等の支払額94百万円等により資金が減少した反面、税金等調整前四半期純利益427百万円、減価償却費189百万円、仕入債務の増加額173百万円等により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は324百万円(前年同四半期比167百万円の支出減)となりました。これは主として、有形及び無形固定資産の取得による支出288百万円等により資金が減少したものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は127百万円(前年同四半期は1,064百万円の収入)となりました。これは主として、短期借入金の純増加額156百万円により資金が増加した反面、長期借入の返済による支出124百万円、配当金の支払額60百万円、自己株式の取得による支出49百万円等により資金が減少したことによるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期の業績につきましては、概ね予想通り推移しており、平成21年10月15日に公表いたしました当初の予想より変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、当連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,158,464	3,119,676
受取手形及び売掛金	2,086,194	1,894,454
商品及び製品	813,704	706,625
仕掛品	525,238	432,024
原材料及び貯蔵品	475,535	438,921
その他	249,428	329,169
貸倒引当金	△52,857	△51,194
流動資産合計	7,255,707	6,869,677
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,231,069	2,286,640
土地	2,567,682	2,440,121
その他(純額)	813,497	736,120
有形固定資産合計	5,612,249	5,462,882
無形固定資産		
のれん	272,640	319,821
その他	36,513	43,971
無形固定資産合計	309,154	363,792
投資その他の資産		
その他	615,623	606,269
貸倒引当金	△18,151	△19,280
投資その他の資産合計	597,471	586,989
固定資産合計	6,518,875	6,413,664
資産合計	13,774,583	13,283,342
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,572,090	1,398,903
短期借入金	2,763,763	2,581,873
未払法人税等	242,340	118,474
賞与引当金	112,500	109,909
ポイント引当金	51,000	50,000
その他	698,548	569,109
流動負債合計	5,440,242	4,828,269

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年8月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	800,000	850,000
長期借入金	1,857,430	2,007,936
役員退職慰労引当金	295,775	283,605
退職給付引当金	113,558	105,699
負ののれん	90,370	109,295
その他	45,498	45,445
固定負債合計	3,202,633	3,401,982
<b>負債合計</b>	<b>8,642,876</b>	<b>8,230,251</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,405,086	1,404,533
資本剰余金	1,482,271	1,481,719
利益剰余金	2,514,346	2,382,649
自己株式	△198,929	△149,624
株主資本合計	5,202,775	5,119,278
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	△71,068	△66,188
評価・換算差額等合計	△71,068	△66,188
純資産合計	5,131,706	5,053,090
<b>負債純資産合計</b>	<b>13,774,583</b>	<b>13,283,342</b>

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)
売上高	6,103,326	7,127,024
売上原価	3,735,120	4,529,933
売上総利益	2,368,205	2,597,090
販売費及び一般管理費	1,990,296	2,155,988
営業利益	377,908	441,102
営業外収益		
受取利息	959	505
受取配当金	7,981	1,820
負ののれん償却額	18,924	18,924
その他	13,736	16,561
営業外収益合計	41,601	37,812
営業外費用		
支払利息	40,026	38,050
投資一任契約解約損	12,045	—
社債発行費	18,381	—
その他	7,615	13,214
営業外費用合計	78,069	51,264
経常利益	341,440	427,649
特別損失		
固定資産除却損	2,669	—
投資有価証券評価損	361,339	—
特別損失合計	364,009	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△22,568	427,649
法人税、住民税及び事業税	136,038	231,751
法人税等調整額	△151,006	4,307
法人税等合計	△14,968	236,058
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△7,600	191,590

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年2月28日)
売上高	3,307,741	3,532,267
売上原価	1,969,973	2,254,398
売上総利益	1,337,767	1,277,868
販売費及び一般管理費	1,108,911	1,090,087
営業利益	228,856	187,781
営業外収益		
受取利息	547	307
受取配当金	3,144	143
負ののれん償却額	9,462	9,462
その他	6,332	10,862
営業外収益合計	19,487	20,775
営業外費用		
支払利息	21,070	18,499
社債発行費	18,381	—
その他	5,695	8,832
営業外費用合計	45,146	27,331
経常利益	203,197	181,224
特別損失		
固定資産除却損	2,195	—
投資有価証券評価損	16,896	—
特別損失合計	19,091	—
税金等調整前四半期純利益	184,105	181,224
法人税、住民税及び事業税	49,074	97,273
法人税等調整額	2,390	14,098
法人税等合計	51,465	111,371
四半期純利益	132,640	69,853

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△22,568	427,649
減価償却費	146,348	189,867
のれん償却額	25,496	28,256
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,644	2,591
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	11,239	12,170
受取利息及び受取配当金	△8,940	△2,326
支払利息	40,026	38,050
投資一任契約解約損(△は益)	12,045	—
社債発行費	18,381	—
投資有価証券評価損益(△は益)	361,339	—
固定資産除却損	2,669	—
売上債権の増減額(△は増加)	67,720	△192,887
たな卸資産の増減額(△は増加)	△111,842	△236,906
仕入債務の増減額(△は減少)	△21,245	173,187
未払消費税等の増減額(△は減少)	△48,979	61,895
その他	△36,650	93,433
小計	443,685	594,981
利息及び配当金の受取額	8,782	2,269
利息の支払額	△36,702	△33,520
法人税等の支払額	△244,554	△94,808
その他	—	△10,502
営業活動によるキャッシュ・フロー	171,210	458,419
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資一任契約の解約による収入	134,164	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△377,493	△288,977
貸付けによる支出	△150,000	—
貸付金の回収による収入	1,560	224
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△95,761	—
その他	△5,065	△35,895
投資活動によるキャッシュ・フロー	△492,594	△324,647

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△45,948	156,000
長期借入れによる収入	500,000	—
長期借入金の返済による支出	△143,842	△124,616
社債の発行による収入	981,618	—
自己株式の取得による支出	△100,959	△49,889
配当金の支払額	△120,276	△60,083
その他	△6,340	△48,894
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,064,252	△127,483
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	742,868	6,288
現金及び現金同等物の期首残高	2,059,878	2,852,657
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,802,746	2,858,945

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年9月1日 至 平成21年2月28日)

	ヘルスケア 事業 (千円)	医薬品 事業 (千円)	その他 事業 (千円)	計(千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高及び営業利益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,137,871	875,249	90,206	6,103,326	—	6,103,326
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	88	—	355,829	355,918	(355,918)	—
計	5,137,959	875,249	446,035	6,459,244	(355,918)	6,103,326
営業利益	537,700	38,559	7,359	583,619	(205,710)	377,908

(注) 1 事業区分は、製品の種類、性質の類似性を考慮して区分しております。

2 各事業区分に属する主要製品等

事業区分	主要な製品又は事業の内容
ヘルスケア事業	健康食品・化粧品・雑貨等の製造・販売
医薬品事業	漢方医療用医薬品・一般用医薬品の製造・販売
その他事業	広告代理店業等

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年9月1日 至 平成22年2月28日)

	ヘルスケア 事業 (千円)	医薬品 事業 (千円)	その他 事業 (千円)	計(千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高及び営業利益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	6,105,113	799,675	222,236	7,127,024	—	7,127,024
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	208	—	295,120	295,328	(295,328)	—
計	6,105,322	799,675	517,356	7,422,353	(295,328)	7,127,024
営業利益又は営業損失 (△)	696,776	80	△38,956	657,900	(216,798)	441,102

(注) 1 事業区分は、製品の種類、性質の類似性を考慮して区分しております。

2 各事業区分に属する主要製品等

事業区分	主要な製品又は事業の内容
ヘルスケア事業	健康食品・化粧品・雑貨等の製造・販売
医薬品事業	漢方医療用医薬品・一般用医薬品の製造・販売
その他事業	広告代理店業等

**【所在地別セグメント情報】**

前第2四半期連結累計期間(自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び支店がないため、該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び支店がないため、該当事項はありません。

**【海外売上高】**

前第2四半期連結累計期間(自平成20年9月1日 至平成21年2月28日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

**(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記**

当社は、平成21年9月1日開催の取締役会決議により、会社法第459条第1項の規定に基づく自己株式の取得を実施いたしました。この結果、当2四半期連結累計期間においては、自己株式が49,305千円増加し、当第2四半期連結会計期間末における自己株式は198,929千円となっております。